

- 一 正副戸長書役筆墨料
- 一 扱所借地料並家賃
- 一 用紙用度品買入費
- 一 布告配達費
- 一 租税金徴収入リ区務所へ送致迄ノ入費
- 一 正副戸長県庁へ出頭旅費
- 一 脚夫賃
- 一 扱所修繕費
- 一 扱所諸器物買入費
- 一 臨時増置書役日給
- 一 小区限取調物入費
- 一 村限賦課スヘキ科目
 - 一 村用掛月給并雇小使日給
 - 一 村用掛筆墨料
 - 一 村用掛用紙用度品買入費
 - 一 村用ニ付村用掛出庁旅費
 - 一 火水盜難猪鹿予防費
 - 一 戸籍調費
- 一 一 村限取調物諸入費
 - 一 實際ニ応シ組合ヲ設ケ賦課スヘキ科目
 - 一 用悪水路修繕費
 - 一 小学校諸費
 - 一 小学校教員世話役等月給
 - 一 暴漲水防費
 - 一 養蚕世話役給料
 - 一 井堰守給料
 - 一 時鐘費
 - 一 溜井修繕費
 - 一 里道修繕費

第十九条

- 一 左ニ明治八年分ノ民費算書ヲ登録シテ以テ参考ニ供セントス
- 一 一金二千四百五十二円二十四銭七厘九毛 県庁并徴役場囚獄管
繕費
- 一 一金七千六百二十七円七十八銭三厘八毛 布告書頒布入費
- 一 一金七万二千九十六円三十銭三厘九毛 道路堤防橋梁修繕費

一金千三百八十九円六十三銭四厘一毛	道路掃除費	一金三百六十二円九十二銭六厘	検見入費
一金二万六千四百六十一円四十二銭七厘九毛	巡查給料及諸費	一金二千三百七十円六十五銭二厘	貢米金取集上納費
一金六百七十六円七十一銭五厘五毛	管内一般達ニ依調物費	一金三百十九円五十二銭九厘	山林調費
一金百九十一円五十一銭五厘	教院費	一金百四十円三十三銭三厘	里程調費
一金四千六百三十四円八十一銭六厘	揭示物築設費	一金千四十円九十四銭六厘八毛	戸籍調費
一金十六円二十九銭五厘	捨児養育料補費	一金千九十一円三十五銭三厘五毛	徴兵下調費
一金四百一円四十五銭五厘五毛	復籍人運送費	一金三千六百六十三円九十銭八厘九毛	番人給料并諸費
一金三万六千七百六十六円八銭二厘二毛	区務所扱所諸費	一金百八十六円四十六銭八厘	猪鹿防禦費
一金七万九千六百七十九円十八銭九厘	区戸長以下給料	一金五十円八十五銭四厘	時鐘費
一金六千八百二十七円二十六銭一厘二毛	区戸長以下出庁其外旅費	一金五十四円四十二銭五厘	波止場修繕費
一金三千五百八十四円十銭三厘	県社郷村社營繕費	一金二円四十銭	碇泊船取調費
一金八千八十一円八十四銭四厘七毛	祭典并遣拜式費	一金二円八銭	困難人手当
一金二千二百七十四円八十一銭八厘九毛	郷村社神官給料	一金二千三百七十九円三十七銭八厘	区費 <small>支庁下第十二大区ニアリ科目不詳</small>
一金五万五千八百三十七円八十八銭四厘七毛	学校費	総計金三十五万八千三百四十一銭三毛	
一金二万四百一十一円九十六銭三毛	用悪水路費	外	
一金三千百六十一円四十八銭八厘	暴漲水防費	金二十万四千九百四十三円七十三銭九厘六毛	地租改正入費
一金八百七十一円十七銭三厘	井堰守給料	金一万三百五十四円五十七銭二厘	国役金

貯金法議案

天不測ノ變災ヲ降下スレハ地ニ不慮ニ水旱ヲ露現ス故ニ變災アル年ハ飢渴以テ民ニ菜色ノ憂アリ水旱ナキノ年ハ豊饒以テ開眉ノ兆アリ是豊饒飢渴トニヨリテ民ニ幸福ト禍害アルハ世界古今ノ通常ニシテ而シテ其年ノ豊凶ノ如キハ巧曆妙算モ推知スル能ワサルモノナリ是ヲ以テ豊饒幸福ノトキ必ス其有餘ヲ儲蓄シ以テ飢渴禍害ノ不足ヲ填補ナスンハアルヘカラス是今般貯金方法ノ由リテ起ル所以ナリ夫レ古來社倉ナル者ハ米穀ヲ畜積スル者ニシテ其法固ヨリ不善ナリト云フヘカラス然リト雖トモ之レヲ永存保護スルカタメニ苟クモ火災水害ノ予防ヲ怠ル時ハ或ハ一朝蕩然焉有ニ帰スルコトヲ免レシ其レ如此トキハ何ヲ以テ非常ニ備ルト云コトヲ得ヤ然ラハ則チ米穀ヲ積ムハ金ヲ積ムノ愈レルニ如カサルナリ而シテ今行フ所ノ貯金方法ニ二種アリ一ハ以テ管内一般ニ課シ一ハ以テ村里ヲシテ其組合ヲ立テ適宜貯金セシメ禍害ヲ未然ニ防キ幸福ヲ無疆ニ保チ天若シ不測ノ變ヲ降シ地ニ一立草ナキニ至ルモ此法普ク行ワレトキハ恐クハ民ニ菜色ノ憂ナカラン因テ左ニ其方法ヲ議セント欲ス

一般貯積(九脱)ス法案

第一条

一 一般ニ賦課スル貯金ハ全管内非常ノ災害ニ罹リ將ニ飢渴ニ迫ラ

ントスル時ニ充費スルモノニテ一区一村ヲ濟救スルモノニアラス其賦課法タルヤ全管内ノ地価ハ七分戸数ニ三分〔戸数ニ賦スルハ民費課出法ニ同シ〕ト目安ヲ立年々地租十分ノ一ト定メ其三分ノ一ヲ一般ノ積立金トシ余三分ノ二ヲ組合村々ニテ積立ツヘキ金額ニ充ントス

但組合村々ニテ三分二ノ金額ヲ割出スモ亦本文ニ準拠セシメントス

トス

第二条

一 事故アリ出金スル不能モノハ米麥ヲ代出スルモ妨ケナシト雖トモ徴収シタル米麥ハ区戸長及□□立会ノ上時ノ相場ヲ以テ売却シ而シテ金錢ヲ以テ県庁ニ出サシメント欲ス

第三条

一 米麥ヲ出スニハ先ツ取立ヘキ金額ヲ定メ其都度時ノ相場ヲ以テ右金額ニ当タル高ヲ納メシム尤小人借家人等ニテ不動産ヲ所持セサルモノ及鰥寡孤独無告ノ窮民ハ之ヲ除カント欲ス

但組合村々ニ賦課スルモ亦本文ニ準拠セシメントス

第四条

一 前条ノ如ク徴集シテ差出シタル金額ハ県庁ニ於テ管理スルモノトシ而シテ抵当品ヲ取り国立銀行ニ預ケ以テ其利ヲ生セシメント

ス

但生スル所ノ利子ハ年末計算シテ元金ノ内エ加ヘントス

第五条

一 貯金ハ毎月区戸長ニテ徴集シ以テ二月五月八月十一月四次ニ県庁エ出サシメントス

第六条

一 若シ非常ノ災害アリ貯金ヲ一般管内ニ賦セントスルトキハ臨時区長ヲ会シテ被害ノ軽重ヲ議シ以テ其支出ノ金額及配賦ノ差等ヲ定メント欲ス

第七条

一 若シ甲ノ大区ニ水害アルカ乙大区ニ旱魃アリテ組合村々ノ積立金ヲ以テ救助スルニ不足ナルトキハ先ツ戸長村吏及代議等ト議シ而ル後尚区長ヲ会シテ議決シ而シテ一般ノ貯金ヲ以テ右ノ不足ヲ填補セント欲ス

第八条

一 前条一般ノ貯金ヨリ救助スルハ其災害ノ重キ組合積立金ノ能ク充費スル不能ヲ以テ一般ノ貯金ヨリ無利足貸渡スモノナレハ全ク下与センモノニ非ス故ニ其備受ケシ金額ハ被害ノ軽重ニヨリ三ヶ年乃至四五ヶ年ヲ据置其翌年ヨリ年賦ヲ以テ返弁セシメントス

但連年ノ水害カ又ハ最モ非常ノ災害等ニテ真ニ困難ヲ極メント

キハ臨時會議ヲ開キ特別ノ詮議ヲ以テ全ク給与セントス

第九条

一 前条ノ如ク一般貯金ノ内ヨリ借受ケシ程ノ凶歳ニハ其年一般ニ課出スヘキ金額ヲ免除セシメントス

但組合村々ノ分ハ其年貯金スルカ否其適宜ニ任セントス

第十条

一 満十ヶ年災害ナクシテ貯金ヲ配分セシコトナキトキハ其期ニ際シ尚積立ツヘキカ否ヲ議定セントス

第十一条

一 既ニ積立タル所ノ金額ハ共有物ニ付一己ノ転籍又ハ身代限等ノ事故アルトモ再割戻ヲ受ル權ナキモノトス故ニ他管下或ハ他区村等ヨリ送籍シ来ルモノモ亦該年ヨリ該所貯金ノ人員ニ加入スルヲ以テ従来積立金額中ノ分配ヲ受ルノ權アルモノトセントス

組合村々ニ貯積スル法案

第一条

一 組合村々ニ積立ントスル金額ノ本旨タルヤ元來堤防川付ノ村里ハ年々水害アリテ啻ニ禍害ヲ被ルノミナラス堤防其他ノ費用□□

□ナレハ平生貯金セサルヲ得スト雖トモ山野僻陋ノ土地ニ至リテハ更ニ水害ノ患ナク却テ禾穀豊熟スル年アリ然ルニ一般積立金ノ内ヨリ水害ニ罹ル村々ヲ救助スルトキハ甲ノ村ハ年々救助請ケ乙ノ村ハ月々出金スルノミ如此ナレハ大ニ人足ノ苦情ヲ醸成スルノミナラス將以テ公平完全ナル良法ト云フ可カラズ故ニ一般其土地ニ寄り〔水旱ノ有無ニ不拘〕便宜敷村ヲ組合セ年々地租三十分一ノ内三分二ノ金額ヲ適宜貯金セシメン為メ左ニ予メ其方法ヲ議セント欲ス

第二条

一 其組合ノ村々ニ寄り若シ金錢ヲ出賦スルコト能ハサルノ事実アラハ米麦ヲ代出スルモ妨ケナシ然レトモ之レヲ品物ニテ長ク貯エ置クハ良善ノ策ニ非ス故ニ戸長村吏代議人及本人等立会ノ上時ノ相場ヲ以テ売却シ換金ヲ以テ公債証書ヲ買入シ歟將外ニ貯金ノ良法アルヤ

第三条

一 前条ノ取扱ヲナスハ渾テ区長管理シ其小区ノ戸長又ハ大区筆生等ノ内ニテ二名以上ノ担当ヲ命シ取扱ニ疎漏ナキヲ欲ス

第四条

一 米金トモ月々取立タル分ハ毎年六月十二月兩次ニ金額ノ計算帳

ヲ製シ県庁ニ差出サシメントス

但該計算帳ハ二通ヲ製シ一ハ県庁ニ差出シ一ハ務所ニ備置モノトス

第五条

一 災害ノ為メニ貯金ヲ其組合村々へ配分セントスルトキハ先其配分スル金高ノ明細計算帳ヲ製シ之レヲ県庁ニ出シテ其証認ヲ乞ヒ而ル後配分セシメントス

但止ヲ得ス燃眉ノ急ニ至リテハ区長ニテ専決施行スルヲ得スト雖トモ其組合一ケ年積立金額ノ三分一ヨリ超過スヘカラサルモノトス

第六条

一 課出方ハ一般ニ貯積スル方法中第一条第三条ニ又転籍等ノ事故アルハ同第十一条ニ照準セシメントス

第七条

一 常ニ水旱等ノ禍災少ク組合村々ハ随テ貯金ヲ費スコト稀ニシテ年々金額累重スルノミ如此村々ハ五ヶ年或ハ十ヶ年目ニ至リ該村ニテ適宜ノ方法ヲ定メシメントス

(注) 左表欠。

乙第貳百拾五号

(二)

各大区

正副区長

本年第六拾貳号ヲ以凶歳租稅延納規則公布ノ次第モ有之候得共各人民ニ於テ凶荒ノ予備可致ハ勿論ニ付別紙ノ通貯金法議案^(注)下付候条本年八本県甲第八十九号布達ニ拠リ追々総代人撰定候向ハ適宜遂商議候上来ル十二月定日県会ノ節出頭意見陳述可致此旨相達候事

但議案中組合村々トアルハ其土地ニ寄りニケケ村或ハ三四ケ村便宜組合候儀ト可心得事

明治十年十月卅一日

神奈川県権令 野村 靖

(注) 前掲。

乙第貳号

(三)

各大区

正副区戸長

凶荒予備ノ為貯金方法ノ儀昨十年十二月県会ニ於テ決議候得共現今追々議員撰定候ニ付テハ尚別紙議案^(注)一般ニ貯積スル法案^(第一)各大小^(条但書ハ今般更ニ加フ)

区議員(下付候条本年初発ノ小区会ニ於テ相議シ尚大区会ニ付シ決議ノ上申出候様可致此旨相達候事

但第一大区横浜市街ハ此限ニアラス

明治十一年一月十一日

神奈川県権令 野村 靖

(四)

各大小区

議員

明治六年第二百七十二号公布ノ通改正ノ租額八年ノ豊凶ニ拘ハラス上納可致答ニ付禾穀豊熟ノ日ニアツテ其有余ヲ儲蓄シ以テ凶年饑歳ノ予備ニ供スルハ今日ノ急務ニシテ一日モ之レヲ緩慢ニ付ス可カラサルモノナリ既ニ明治十年第六十二号ヲ以テ租稅延納規則公布ノ次第モ有之兼テ各自ノ心得方モ可有之候得共未タ一定ノ方法無之ニ付今般別紙貯金法案^(注)取調下付候条本年初発ノ定会ニ於テ議決ノ上区長(可申出此旨相達候事

但第一大区横浜市街ハ此限ニアラス

明治十一年一月十一日

神奈川県権令 野村 靖

(神奈川県布達)

(注) 前掲。但し「一般ニ貯積スル法案」第一条但書は左の事項が追加さ

れている。

但戸數ノ儀ハ大小精粗ノ別アレハ之ヲ同一ニ賦課スルハ不公平ニ付右
割合方ハ追テ議定セント欲ス故ニ先ツ地価ノ分ノミ賦課セシメントス

第二節 大小区會議關係

四 足柄県大小区議事概則

地方事務ノ最大ナル民産ヲ富殖ニシ安寧ヲ保護シ民智ヲ開闡シ民権
ヲ保全スル等ノ數目ナル者ハ目今ノ急務ニシテ瞬間モ之レヲ忽セニ
ス可ラス而シテ之レヲ實際ニ施為シ実効ヲ挙クル者ハ則チ地方官吏
在職者ノ責ナリ何ヲカ地方官吏ト云フ県官及ヒ区戸長是ナリ其実効
ヲ挙クルノ要ハ則チ上下協和シ氣脈ヲシテ流通セシムルニ在リ之レ
ヲシテ能ク流通凝滞スルコトナカラシメハ則チ上旨ノ嚮フ所口下ニ
貫徹シ易ク人民ノ情願スル所ロモ亦タ暢達シ安シ其上下協和氣脈流
通セシムルハ会同協議シ各其胸臆ヲ披キ肝胆ヲ咄露シ正義極論スル
ヲ以テ第一要義トナス故ニ嚮キニ各区ニ會議所ヲ設ケ纏ニ議事ノ端
緒ヲ開ク然リ而シテ一般ノ人民尚ヲ未タ旧套ヲ脱却セスシテ議事ノ
要旨ヲ曉知セス故ニ上下ノ氣脈ヲシテ支離阻隔ノ患ヒ尠トセス是ヲ
以テ今般更ニ大小区ノ會議ヲ興シ其概則ヲ略定ス苟モ各区戸長代議
員タル者一般人民ノ心ヲ以テ心トシ此ノ概則ノ順序ヲ履行シ正義極

論上下ノ氣脈ヲシテ流通セシメ官民一致協力スルヲ要ス可シ然レハ
則チ勸業ノ民産ヲ富殖ス可ク警察ノ安寧ヲ保護ス可ク民智ヲ開闡ス
可ク民費ヲ節減ス可ク其他百般ノ事業ニ於テ実効ヲ奏シ無數ノ利便
ヲ興シ上ハ以テ 聖化ノ万一ヲ補ヒ下ハ以テ人世本分ノ洪福ヲ徼工
國家ニ報スル義務ヲ尽スト云フ可シ敢テ請フ各位勉勵從事シ各ノ其
職ヲ尽サンコトヲ仍テ概則ヲ頒示シ此段申達候也

明治七年八月

足柄県権令 柏木忠俊

足柄県権參事 城多 董

大小区會議概則

- 一 大区會議所ハ県庁下ニ設置ス可シ
- 但開場ハ春秋二次ヲ恒例トナス臨時ニ會議ヲ求ムルコトアレハ
- ・ 会頭ノ特權ニテ其ノ時々報告ス可シ
- 一 大区會議ノ会頭幹事及ヒ議員等捻テ管下一般人民ノ中ヨリ公選
スル者トス然レトモ議事ノ体裁未タ整備セス故ニ暫ク仮リニ長官
ヲ会頭トナン担当ノ属官ヲ幹事トナン自余ノ官員ヲ參座トナン各
ノ所見ヲ陳述スルヲ聽ス正副区長ヲ以テ代議員トナス
- 但管下未タ正区長ヲ置カス故ニ当分各小区毎ニ副区長ノ内ニテ

一名ヲ選択シ其ノ区内ノ代議員トナス

一 会議場ニ於テハ各其胸臆ニ蘊蔵スルコト無ク腹心ヲ披キ公議興論ヲ採リ雷同付和ノ弊ナク上旨ヲ下徹シ下情ヲ上達スルヲ専務トナシ官民協和漸次ニ旧染ノ陋習ヲ破リ人民一般公共ノ利益ヲ振興スルヲ要ス

一 小区會議ニテ議判セシ条件總テ此会場ニ於テ覆按議定シ成規ノ有ル者ハ之レヲ照シテ施行シ其無キ者ハ官省ニ上稟シ許允ヲ得テ施行ス可シ然レトモ其ノ輕重緩急ヲ斟酌シ施行スルト否ラサルトハ會頭ノ特權ニ在ル可シ

一 議事ノ形況ニ因リ本日ニ決議セサル者ハ次會ニ再議スルヲ例トス然レトモ會頭決議ヲ促スコト有レハ數日ヲ累ヌト雖モ閉場ノ命令ヲ得サレハ代議員恣ニ退散スルヲ聽サス

一 会場ニ於テ議サント欲スル事件ハ總テ議案書ヲ作り幹事ニ付ス可シ幹事之レヲ高声ニ朗讀シテ代員ニ付テ議サシム可シ

一 代議員事故アリ会場ニ出ツルコト能ワサレハ自記委任状ヲ以テ代理人ヲ出ス可シ幹事其委任状ヲ承認シテ會頭ニ申稟ス可シ總テ会場ニ在ツテハ本人ト同等同權ト看做ス可シ

一 各区ニ賦課スル費用ハ精算ノ帳簿正副二本製シ会場ニ於テ代議員共同照査シ會頭承認ノ印証ヲ受ク可シ其承認ノ印証ノナキ者ハ

之レヲ賦課スルヲ聽サス

但承認印証セシ正本ハ区内一般ノ人民ニモ明示スルヲ要ス副本ハ之レヲ県庁ニ収メ他日ノ參閱ニ備フ

一 此会場ニ於テ議スル所ハ管下一般人民ノ公益ヲ保護スルヲ目的トナス故ニ其綱領ヲ示スコト左ノ如シ

旧染ノ陋習ヲ破リ開化ヲ勸誘スル事
民費賦課ノ方法并費用ヲ検査スル事
学校病院ヲ設立シ并保護維持スル事
勸業ノ事

濟貧育幼授産方法ノ事
水利堤防道路橋梁ノ事

保護警察ノ事

予備凶荒ノ事

以上大区會議概則假定スル所ナリ

一 各小区ニテ毎月一次道路均平適宜ノ地ヲ選擇シ會議所ヲ設置ス可シ

一 會頭及議員ハ区内一般人民ノ公選ニテ任スル者トス然レトモ當分ノ内仮リニ副區長ノ内ニテ一名ヲ選擇シ會頭トナシ自余ノ副區長ヲ幹事トナス各村町駅毎ニ正副戸長ノ内一名一般人民ノ内ニテ

相応ノ家産ヲ所有スル者一名ヲ公選シ各村町駅毎ニ二名ヲ挙ケテ
代議員トナス可シ

但県官時々臨席スルコト有ル可シ

一 会議場ニ在テハ上旨ヲ下徹シ下情ヲ上達シ区内ノ安寧輯睦興利
除害等ノ事ヲ議スルヲ専務トシ付和雷同ノ弊ナク一己ノ私見ヲ主
張セス総テ公論ニ基キ一般人民公共ノ利益ヲ振興スルヲ目的トナ
ス可シ

一 会場ニ在テハ会頭ハ各代議員ノ議スル所ロ可否ノ多寡ト事情形
態トヲ審按熟議シ再ヒ大区ノ會議ニ於テ議決ス可シ之レヲ掩蔽墮
塞スルコト有ル可ラス

但急遽閣ヲキ難キ事件アレハ臨時會議ヲ大区会頭ニ請求ス可シ
一 各村町駅ノ民費ニ賦課スル經費ハ毎月明細精算ノ帳簿ヲ制シ會
場ニ於テ協同照査シ會頭承認ノ印証ヲ受ク可シ其ノ印証ノナキ者
ハ之レヲ賦課スルヲ聽サス

但此承認ノ印証セシ簿冊ハ遍ク各町村駅ノ人民ニ明示ス可シ

一 本日決シ難キ事件ハ次會ニ再議スルヲ例トナス然レトモ会頭ヨ
リ決議ヲ促スコト有レハ數日ヲ累ヌト雖モ閉場ヲ告知セサレハ恣
ニ退散スルヲ聽サス

一 代議員事故アリ会場ニ出ルコト能サレハ自記ノ委任狀ヲ以テ代

理人ヲ出ス可シ会頭ノ承認ヲ得レハ捻テ本人ト同等同權ト看做ス
可シ

右概則ヲ設為スト雖モ實際ニ於テ不便ナル者ハ漸次ニ審議シ増減更
正ス可シ

明治七年八月

(申第十二号明治九年三月編輯之^{歲出入之部}區^會會^{湯河原町役場藏})

(注)裏表紙ニ「吉浜町事務所(印)」と記されている。

四 神奈川県第一大区代議人選挙規則および

同改正(一一二)

庶第五十六号

(一)

第壹大区

區長
戸長

該區之義ハ是迄代議人之設ケ無之処他ノ大区ニ於テハ客歲七月中ヨ
リ議員撰挙之上既ニ民情ニ関スル事件協議為致居候処自今該區ニ於
テモ同様相心得代議人撰挙可致事

但代議人會議ノ規則ハ追テ可相違事

第壹条

一 代議人員一小区五名ヲ撰挙ス

第貳条

一 代議人ノ撰挙ニ当ルハ此区内ノ本籍貳拾歳以上ノ男子ノ戸主ニシテ壹ケ年不動産之租税金貳拾円以上相納ムル者タルベシ
但他管下又ハ外区内ヨリ出店ノ名代ト雖モ当区内本籍ノ者ニテ

備主ヨリ兼テ委任ヲ請地所其他ノ物品売買ノ權アルモノハ本条

ニ照準シ撰挙スベシ

第叁条

一 代議人撰挙ニ当ル者期限壹ケ年トシ毎年入札ノ法ヲ以テ定ムルヲ定規トス尤期限内事故アツテ辞スル者ハ一周前申告スヘシ

第四條

一 議員制限ニ関シ入札日数ヲ以テ除スル者アル時ハ其小区代議人ニ当リタル者ヨリ更ニ入札シテ其数ノ多キヲ採ルヘシ
右ノ通相心得各人民委任スヘキ見込ノ者印封ヲ以入札為致四月二十日限取纏メ庶務課江差出候様可致此旨相達候事

明治八年三月卅一日

神奈川県令 中島信行

第十八号

(二)

第一大区

各小区

正副戸長

去ル十一日代議人共会同協議一定ノ由ヲ以テ議人増員及税納下額情願之趣聞届候ニ付最前相達候撰挙章程ノ内左ノ通り改定候事

第一条

代議人員一小区十名ヲ撰挙ス

但二小区ハ人口尠キヲ以五名トス

第二条

代議人撰挙云々租税金ノ下「二十円云々」ヲ削リ拾円二小区ハ租税金並ニ賦金ノ内五円以上相納ムル者タル可シ

右ノ通相心得二小区ハ欠員ノ二名其他ハ増員ノ分一人ヲシテ五名ツ、更ニ撰挙入札為致来ル十七日午後一時ヨリ開札候条右ノ心得ヲ以入札取纏メ差出候様可致此旨相達候事

明治八年五月十四日

神奈川県令 中島信行

(神奈川県布達)

四七 神奈川県自第二大区至第廿大区代議人選挙規則

第百九拾号

第三大区ヨリ
第拾大区迄

正副区戸長

是迄各町村式拾戸ニ付老人ノ代議人ヲ置クノ制ヲ定メ相達候処未タ其撰挙及ヒ職務等ノ規程確然相立サル故力往々其所行上不都合モ不尠或ハ町村用掛ノ代理又ハ補助抔相勤メ候輩モ有之趣ニ付今般更ニ其程規ヲ相立候間以後右ニ照準可致此旨相達候事

明治八年十月十二日

神奈川県令 中島信行

代議人規則

第壹条

代議人ハ五拾戸ヨリ百戸マテノ町村ハ拾五人百戸ヨリ式百戸マテノ町村ハ式拾人式百戸ヨリ三百戸マテノ町村ハ式拾五人三百戸ヨリ五百戸マテノ町村ハ三拾人ヲ撰挙シ以上戸数増加スル町村タリトモ三拾人ヨリ多キ代議人ヲ撰挙スヘカラス

但五拾戸以下ノ町村ハ隣町村合併シ定員拾五人ノ代議人ヲ撰挙スルモ障ナシトス

第貳条

代議人ヲ撰挙シ又ハ代議人ニ撰挙セラル、モノハ其町村ノ本籍ニシテ男子満二十歳以上ノ戸主タルヘシ

但シ戸主病身等ニテ平生其家事向ヲ世話致シ来リ候其戸主ノ子弟ハ代議人ヲ撰ヒ又ハ撰ハル、ヲ得ルト雖満二十歳以上タルハ勿論ナリ

ナリ

第三条

代議人撰挙ノ節ハ其区ノ戸長及ヒ町村用掛ニテ取扱ヒ予メ撰挙ノ日ヲ定メ無洩其町村ヘ告知セシムヘシ

但撰挙ノ日ニハ其町村代議人ヲ撰挙スルモノ一同集会シ入札相済候得ハ戸長村用掛立合ニテ開札シ高声ニ衆人ノ眼前ニテ読揚ケ終リテ後高札ノモノヨリ順次書記シ其場所エ張出スヘシ

第四条

代議人トナルモノハ決シテ町村用掛ノ代理又ハ補助タルヲ得ス所謂其町村ノ代議人ナレハ勤メテ公平ヲ旨トシ其町村ノ民費割渡方ヲ相談シ且其遣払ノ当非ヲ検査シテ其町村人民ノ疑念無カラシメンコトヲ要ス

但代議人ハ民費ノ割渡シ方ヲ相談シ及ヒ其遣払ヲ検査スルモノニシテ決議ノ上是ヲ取立テ或遣払ノ事務ハ総テ其町村用掛ノ任タルヘシ

第五条

代議人タルノ年限ハ貳年トス貳年毎ニ改撰スヘシ

第六条

代議人タルモノ年限中町村用掛ノ職務ニ関スル場合アラハ本体ノ職務ヲ解キ議場ニ列スルモ自己ノ異見ヲ陳述シ或ハ議案ヲ可否スルコトヲ得ヘカラス

但町村用掛ノ職務ヲ離レ代議人年限猶余期アラハ再ヒ議員ニ復スヘシ

右之通相定候事

(神奈川県布達)

足柄県大小区會議心得

會議心得之大略

各小区ノ會議ハ各村町ノ議員集會シ小区ノ議員之レカ議長タル可シ

但各小区ニテ議員二名宛各村町ノ議員公選ヲ以テ挙ル者トス

大区會議ハ各小区ノ議員集會シ大区議員之レカ議長タル可シ

但シ撰挙ノ法ハ小区ニ同シ

各小区會議ニハ其区内正副戸長及里長立會人等共同臨席シ大区會議

ニハ正副区長臨席シテ所見ヲ建議シ又ハ可否得失ヲ討論スルノ權ア

リ然レトモ之レヲ議決スルノ權ハナキ者トス摠テ議員ノ任タルヤ一己ノ私見ヲ主張スルヲ聰サス公同利益ニ注意シ其ノ施設方法ノ利害得失ヲ論定ス可シ譬エハ道路ヲ修繕スルニ方リ其ノ道幅ヲ画定シ其ノ工役ヲ賦課スル法ヲ立ル如キニシテ此一例ヲ推シテ其他ヲ知ル可シ然レトモ之レヲ實際ニ舉行スルハ正副区戸長及里長ノ權内ニ有リ必ス此權限ニ於テ毫モ乱ル可カラス

議員在任ハ四年トス二年目毎ニ半数ツ、新旧交換スルヲ以テ仮リニ定則トス

各小区ノ會議ハ一ヶ月ニ一回トシ大区會議ハ三ヶ月目毎ニ一回トナス可シ

但シ臨時ノ會議ハ此限ニアラス

會議場中ニ於テ議員タル者ハ各村町ノ議員ハ里長ニ准シ各小区ノ議員ハ正副戸長ニ准シ大区議員ハ正副区長ニ准シ候補權ヲ有スル者ト可相心得候事

明治八年五月九日

足柄県令 柏木忠俊代理

権參事 城多 董

(諸控簿) (明治八年) 大矢糸ひ氏藏

一 神奈川縣第一大区區會議事章程および

同改正(一―二)

(一)

第四十一号

第一大区各小区

正副議長
代議人

該区々會議事章程別紙ノ通相定候条六月一日ヨリ施行可致此旨相達
候事

但議事ノ紹介ヲ得レハ密会ノ外傍聴ノ義不苦儀ト可相心得事

明治八年五月廿八日

神奈川縣令 中島信行

(別紙)

第一大区々會議事章程案

第一条

一 會議ハ毎月一日十六日ヲ以テ定日トス尤モ日曜日又ハ休暇ノ日

ナレハ日送リタル可シ

但臨時要件アリテ議員三人以上連署シテ會議ヲ開カンコトヲ乞

フ時及ヒ県庁ヨリ特ニ議案ヲ下付スル時ハ常例外開場スル□ア

ルヘシ

第二条

一 午後一時ヨリ五時迄ヲ會議ノ時間トス

但午後零時四十五分一同議場ニ就キ一時ヲ俟テ免議スルヲ例ト

ス

第三条

一 議員中ニ於テ入札ヲ以テ議長及副議長ヲ撰挙スヘシ

但議長副ハ当分一ヶ月ヲ期限トシ其時々議員ノ入札ヲ以テ定ム

可シ

第四条

一 区会所書記一人ヲシテ議場一切ノ事務及ヒ諸記録ヲ掌ラシム若

シ区会所書記欠員ノ時ハ町用掛ノ内一人ヲ選テ之ニ充ツ

第五条

一 議員ハ虚心公平ヲ旨トシ敢テ褻貶黜陟毀譽侮慢等ノ挙動及ヒ雷

同阿諛面従腹非等ノコトアル可カラス

第六条

一 議員ノ席次ハ免会ノ節抽籤ヲ以テ之ヲ定メ一ケ年間其順序ヲ以

テス

但會議中故ナク其着席ヲ離ル可カラサルコト勿論タル可シ

第七条

一 議案ヲ出ス者ハ必ス其大旨ヲ書面ニ認メ會議ノ前日迄ニ書記官

ニ出ス可シ書記官ハ之ヲ受取速ニ議長ニ出ス可シ

第八条

一 議員ハ必ス一人ツ、發言ス可シ若シ二人以上同時ニ發言スルトキハ議長之ヲ制止シ先ツ發言セシト見認ルモノヲシテ充分ニ其所論ヲ竭サシムヘシ

第九条

一 議事ハ総テ議長ニ対シテ發言ス可シ尤時トシテハ議長ノ見込ヲ以テ甲乙兩員對議セシムルコトアルヘシ

第十条

一 議事ハ衆說ノ多寡ヲ以テ可否ヲ決スト雖トモ之ヲ實際ニ施行スルハ必ス県庁ヘ申請シ県令ノ指揮ヲ受ケヘシ

但可否ノ說相半スルトキハ議長ノ見込ヲ以之ヲ決ス可シ

第十一条

一 議案ノ旨趣錯雜ニシテ一時見込難相立又ハ其事ノ方法着手ノ順序等其日ノ会ニ結局ナリ難キモノハ後会ヲ期シ各議員ヨリ書面ヲ以テ答議セシムルコトアルヘシ

第十二条

一 議案ニ対シ討論稍定リタル後各議員ノ同意不同意ヲ徵セン為メ議長ヨリ可否如何ト問フ時ハ議案ニ同意或ハ議案ニ不同意或ハ議

案ヲ非トスル何番ノ說ニ同意ト明了ニ陳述ス可シ

第十三条

一 議場ニ於テ他事ヲ私議ス可カラズ

第十四条

一 議員ハ素ヨリ区内人民ノ代議ヲ託スル所ノモノナレハ県庁ニ於テハ此議會ニテ決議スル所ハ即チ区内人民ノ可否スル所ト認ム可シ

第十五条

一 時宜ニ依リ区戸長及ヒ其代理者ハ此會議ニ參シ其担任ノ事務ニ付所見ヲ陳スルヲ得ヘシト雖トモ其議案ノ可否ヲ決スル数中ニ入ルヲ得ス

第十六条

一 県庁ヨリ議員ヘ諮詢スル事件ニ付テハ其理由事理ヲ陳スル為メニ県令或ハ參事諸課長等參会スルコトアル可シ

第十七条

一 議事ノ要務トスル箇条左ノ如シ

第一 区入費徵收ノ事

第二 水道建築並保存ノ事

第三 瓦斯燈建築並保存ノ事

第四 学校ヲ設立シ並保存ノ事

第五 病院保存ノ事

第六 新ニ道路ヲ開キ或ハ之ヲ補理シ橋梁ヲ架スル事

第七 教育所ノ事

右ハ其要務ノ大略ニシテ茲ニ掲ケサル事件ト雖トモ区内一般ノ利害ニ関スルモノハ此議會ニ於テ議定ス可シ

(一)

番外

第壹大区 長

同各小区 正副戸長

今般詮議ノ次第有之第一大区々々會議事章程追加第十八条ヲ廢シ更ニ

左ノ通り改正候此旨相達候事

第十八条

一 総議員ノ決議ニヨリテハ各小区ニ二人以下ノ復撰議員ヲ置リ得ヘシ尤撰挙ハ其小区内ノ議員ニテ其復撰議員ヲ撰挙スヘシ

但書ハ従前ノ通り

明治九年五月十八日

神奈川県権令 野村 靖

(神奈川県布達)

五 神奈川県議會事章程

第七号

各課長

各大区

区長副

是迄ノ区長會議ヲ以テ爾後県会ト相稱シ右議事章程別紙ノ通り相定明五日ヨリ施行及ヒ且議事ノ義自今庁中書院ニ換候条此旨可相心得此段相達候事

明治八年五月四日

神奈川県令 中島信行

(別紙)

県會議事章程

第一条

一 毎月五日ヲ以テ會議定日トス尤モ当日土曜日又ハ休暇ノ日ナレ

ハ日送リタル可シ

但令參事ノ見込ヲ以テ此定日ヲ閉会シ又ハ臨時閉場スルコトアル可シ

ル可シ

第二条

一 午後二時ヨリ五時迄ヲ會議ノ時間トス

但午後一時四十五分一同議場ニ就キ二時ヲ俟テ發議スルヲ例ト

ス

第三条

一 太政ノ是非ハ勿論官省公布ノ制度条例ハ仮令不適當ト思フトモ此議會ニテ議スル得^(ラ)ズ唯管下人民ノ公益ヲ謀ルカ為メナレハ地勢民情ニ因リ實際ニ施行スヘキ事ヲ議スヘキモノトス

第四条

一 治下人民ニ関ス可キ各課長及一大区限り区长副ノ内一員ツ、ヲ議員トス

但事故アリテ欠席スルトキ課長ハ該課中十三等以上ノモノ区长副ハ外区々長副或ハ書記ヲ以テ代議ヲ為サシム可シ

第五条

一 議員ハ虚心公平ヲ主トシテ敢テ褒貶黜陟毀譽侮慢等ノ舉動及雷同阿諛面從腹非等ノ事アルヘカラス

第六条

一 議員席次ハ該年初会ニ抽籤ヲ以テ之ヲ定メ一ケ年其順席ヲ以テス

但代議ノ者ハ本人ノ席ニ着キ且會議中故ナク其着席ヲ離ル可カラザルコト勿論タル可シ

第七条

一 議案ヲ出ス者ハ必ス其大旨ヲ書面ニ認メ會議ノ前日迄ニ令ヘ出ス可シ

但參事代理ノ時ハ參事ヘ出ス可シ

第八条

一 議員ハ必ス一人ツ、直立シテ發言ス可シ若シ二人以上同時ニ發言スルトキハ令參事其順次ヲ定メ一人ツ、發言セシム可シ

第九条

一 甲議員發言中ハ乙丙何レモ發言ス可カラス其言終ルヲ待テ初メテ發言ス可シ

第十条

一 議事ハ都テ令參事ニ対シ發言ス可シ尤モ時トシテハ令參事ノ見込ヲ以テ甲乙兩員對議セシムルコトアル可シ

第十一条

一 議案ノ旨趣錯雜ニシテ一時見込難相立又ハ其事ノ方法着手ノ順序等其日ノ会ニ結局ナリ難キモノハ後会ヲ期シ各議員ヨリ書面ヲ以テ答議セシムルコトアル可シ

第十二条

一 議事ハ衆說ノ多寡ヲ以テ可否ヲ決スト雖トモ時トシテ其議ノ事

由ヲ審案シ其適ト不適トヲ勘査シ令參事ノ見込ヲ以テ專決スルコトアルベシ

第十三条

一 議案ニ対シ討論稍定リタル后各議員ノ同意不同意ヲ徵セン為メ令參事ヨリ可否如何ト問フトキハ議案ニ同意或ハ議案ニ不同意或ハ議案ヲ非トスル何番ノ説ニ同意ト明了ニ陳述ス可シ

第十四条

一 議場ニ於テ他事ヲ私議ス可カラズ

(神奈川県布達)

五 足柄県議事要領

七月八日會議決議之

県会

第十六条議目ノ要領トスル者左ノ如シ

- 一 民費ノ事
- 一 災害備慮ノ事
- 一 管内取締及安寧風儀ニ関スル事
- 一 管内共立ノ学校及貧院病院等ノ事
- 一 諸会社及市場ノ事

一 道路堤防橋梁ノ事

一 土地ヲ開キ産物ヲ興ス事

一 水陸運輸ノ便ヲ開ク事

一 賦金ヲ課スル事

一 府県会内規則ノ事

区会

一 公有財産ノ事

一 区会内規則ノ事

一 取締及安寧風儀ニ関スル事

一 共有ノ学校及貧院病院等ノ事

一 新ニ土地物産ヲ開殖スル事

(「諸控簿」(明治八年) 大矢多比氏蔵)

五三 町村會議事心得ならびに仮規則

第九十八号

各区

区戸長副

管下一般衆庶共同之利益ヲ計ラン為メ町村會議事仮規則別冊之通相定候条区内人民へ厚ク説諭ヲ加へ右規則ニ照準夫々手續ヲ以各町村

第2章 大区小区制

議事會為相開候様精々尽力可致此段相違候事

明治八年七月五日

神奈川縣令 中島信行

(別冊)

町村議事會心得

第一条

一 町村議事會ハ元來衆庶共同ノ利益ヲ計ル為メ設ルモノナレハ能々右主意ヲ會得シ別冊仮規則ニ照準シ精々取開クヘシ

第二条

一 町村會ノ体裁大略相立チシ上ハ大区會県會ト推シ及スヘシ

第三条

一 規則ハ總テ假定ノ儀ニ付其間万一違犯ノ者之アルモ敢テ罰則ヲ設ケス若シ犯ス者アレハ議長ヨリ厚ク訓誡ヲ加ヘ又ハ衆議ノ上退席セシムヘシ

第四条

一 會議ハ町村毎ニ開ク可シト雖モ人口寡少ニシテハ會規立チ難カルヘシ仍テ三百口未満ノ町村ハ最寄適宜合併シテ開會スヘシ

第五条

一 會場ハ其町村手広キ人家或ハ寺院等ヲ借り受ケ仮ニ會議所トスヘシ尤某所某寺院某ノ宅ニ開會スルノ旨届出スヘシ

第六条

一 凡此會議席ニ於テハ尋常弁當ノ外ハ仮令自費ヲ以テスト雖モ狼ニ飲食スルコトヲ許サス

(別冊)

町村會議事仮規則

第一章

議事ノ大綱

第一条 此議會ハ專ラ其町村内人民ノ安穩公益ヲ謀ルカ為メニ設クル者ナレハ專ラ第五章第一条ニ掲ルガ如キ條款ヲ議スルヲ要ス

第二条 公選ニ中リ議員タル者ハ即チ其地各人民ノ名代ナレハ職ハラ公正ノ心ヲ以テ其町村内一統ノ安穩公益ヲ議スルハ勿論ニシテ固ヨリ一己ノ私心ヲ挾ミ偏頗ノ議論及ヒ他人ノ自由ヲ妨碍スル等ノ說ヲ主張スルナキヲ要ス

第二章

選舉人之事

第一条 其町村用掛事務取扱所ニ選舉人ノ姓名帳ヲ製シ置ヘシ
第二条 選舉人ハ其町村内ニ住居シ且其町村ノ本籍タルヘシ但二十歳未満ノモノ及婦人ノ戸主ハ除クヘシ

第三条 前条選挙人タル者他所ニ寄留スル時ハ当人ノ見込ニ任セ名

代人ヲ出スヲ得且他町村ノ人ニテ本町村内ニ不動産ヲ所有スル者

ハ其者ノ見込ヲ以テ其名代人ヲ選挙人中ニ加フル事ヲ得ヘシ

第四条 癩癩人及ヒ懲役一年以上ノ刑ヲ被タル者ハ選挙人タルヲ得

ス

第五条 選挙人増減変更有之節ハ速ニ名簿ヲ改正スルハ町村用掛ノ

任タルヘシ

第三章

公選入札之事

第一条 毎年八月一日ヲ以テ公選ノ定日トナスヘシ

第二条 議院ハ選挙人公選入札法ヲ以テ第四章第一条ニ示ス定員ノ

如ク之ヲ選挙スヘシ

入札用紙小半紙

書式

第何大区何小区何町

身分

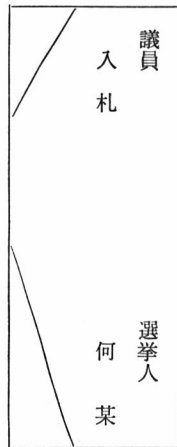
何 某

年月日

第何大区何小区何町
何 番 地

身分

何 某 印



第三条 議員ニ挙ケラル、者ハ本町村ノ籍ニテ不動産ヲ所持スル戸

主及ヒ其子弟タルヘシ尤モ孰レモ満二十歳以上ノ者タルヘシ

但不動産ヲ所持セサルモノト雖モ一村一町中挙テ議員タルヘキ

ノ申立アルモノハ県令ノ許可ヲ得テ直チニ議員タルヲ得ヘシ

第四条 議員タルモノハ左ノ職務ヲ兼動スルコトヲ得ス

一 区戸長及ヒ町村用掛等

二 小学校ノ教員及ヒ教導職ニ任スル者

三 現今軍務ニ任スル者

第五条 前条ニ記載シタル職務ヲ受ル者ハ直チニ退任シ其由ヲ記シ

本会ヘ報告スヘシ

右之者当町議員ニ適當之見込ニ候也

第六條 議員タル者ハ左ノ事件ニ関係スルヲ得ス

一 人民相對ノ詞訟ニ付代言書

二 本町村内ノ共有金穀ノ取扱及ヒ民費工作ノ受負

第七條 前條ノ定ヲ犯ス時ハ議長ヨリ其職務ヲ止ムヘシ

但右申渡ヲ受ケタル者ハ滿二年ノ間選舉シテ議員ト為ス事ヲ得

ス

第八條 議員公選ノ節ニハ選舉人一同出席シ衆人ノ前ニ於テ入札ス

ヘシ

但其日欠席ノ者ハ其度限リ除名スヘシ

第九條 選舉人多人數ニシテ混雜アルヘキト見込ム時ハ予メ二三十

名宛數組ニ分ケ入札ヲナサシムヘシ

第十條 入札開封ノ節モ前條ノ如ク衆人ノ前ニ於テ本町村ノ町村用

掛ノ中ニテ取行フヘシ

第十一條 入札ヲ開ク時ハ夫々認タル名前ヲ老杖ツ、高声ニ誦上ヘ

シ

第十二條 開札既ニ終レハ投票ノ多寡ヲ調分ケ誰某ニ幾枚ト云フ事

ヲ逐一書留ムヘシ

第十三條 前條書留メ終リテ入札最多キ者ヲ初筆トシ順次其町村ノ

定員ノ如ク落札人ヲ定メ其名前ヲ更ニ誦上ヘシ

但入札同數ナレハ年長セル者ヲ以テ甲トシ年劣レル者之ニ次ク
如シ年齡同シケレハ抽籤ヲ以テ定ムヘシ

第十四條 落札人ハ右落札名前誦上ケ終レハ即チ議員ト心得ヘシ

但シ落札ノ者其場ニ不在ナル時ハ其本町用掛ヨリ本人エ通知ス

ベシ

第十五條 落札ノ者前條ノ報ヲ得レハ任ヲ受ルカ又ハ之ヲ辞スルカ

否ヲ町用掛ヘ翌日決答スヘシ最モ選舉ニ當ル者身体多病ナルカ或

ハ其他止ムヲ得サル事故アルニ非レハ其任ヲ辞スルヲ得ス

第十六條 議員タル者其任ヲ辞セント欲スル時ハ其事故ヲ詳明ニ記

載シ本會ヘ申立本會ノ承諾ヲ得ルノ後退任スヘシ

第十七條 既ニ公選ニ中リ其任ヲ受ケタル者ハ左ノ誓約ヲ本會ニ差

出シ其清廉ト勉勵トヲ証スヘシ

某這回我町村會議議員ノ選ニ膺レリ某之ヲ

皇天上帝ニ誓ヒ清廉ト勉勵トヲ以テ公平ノ議論ヲ証シ其責任ヲ

負擔スヘシ敢テ誓フ

年月日

第十八條 議員ノ名前既ニ定リ誓約ヲ為シ終レハ其本町村内ヘ揭示

シ且県令并ニ本区区戸長ヘ申出ヘシ

第十九條 總テ議員會場ノ座順ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定メ毎會必ス其席

ニ就クヘシ若シ退任之アル時ハ新任ノモノ下席ニ加ルヘシ

第二十条 議長幹事及ヒ議員ノ任期ハ総テ二ケ年タルヘシ

但交代ノ順序初年ハ圖ヲ抽キテ之ヲ定メ一ケ年ニテ其半ヲ退任

スヘシ

第廿一条 毎年八月一日ヲ期トシ交代代表ヲ繰リ総員ノ半ヲ退任スヘシ

但退任シタル者ヲ直チニ再選スルモ妨ナシ

第廿二条 退任死去若クハ他ノ事故アリテ辞スル者アル時ハ議長長期

日ヲ定メ臨時ノ公選ニテ欠員ヲ補フヘシ

但議長若シ本条ノ如キ事故アルニ際セハ臨時ノ公選ヲ以テ議長

ヲ定ムヘシ

第四章

議長及ヒ幹事議員定員ノ事

第一条 一 議長一員 但議員中公選ヲ以テ之ヲ定ム

二 幹事二員 但人札ヲ以テ二員ヲ挙ケ町村用掛一員ヲ合

セテ三員ヲ置クヲ法トス尤人口多数ニ涉レ

ハ一員ヲ増スモ妨ケナシトス

三 議員定員左ノ如クナルヘシ

人口三百ニ付 議員十五人

同 四百ニ付 議員二十人

以上都テ此割合タルヘシ

第二条 議長ハ本会ノ規則ヲ掌ルモノナレバ会議ノ席ニ於テ自己ノ

論ヲ発スルヲ得ス

第三条 幹事ハ本会一切ノ雑事及ヒ記録費用等ノ事ヲ管掌スヘシ

第四条 議長幹事及ヒ議員ハ総テ無給タルヘシ

第五章

議事ノ條款

第一条 町村会ニ於テ議事ノ要務トスル條款左ノ如シ

一 官令ノ旨趣ヲ遵守シ其町村ノ衆庶平和ヲ保ツ事

二 町村限りノ費用ヲ定ムル事

三 租税其外諸公費ノ帳簿ヲ検査スル事

四 他向ヘ対シ其町村ノ名義ヲ以テ原告又ハ被告トナリタル訴訟

及ヒ同名義ヲ以テ借金并ニ其返済ノ事

五 町村用掛以下ノ人員給料ヲ取極メ及ヒ公選人札スル事

六 金穀ヲ畜積シテ以テ非常災害ニ備フル事

七 学校ヲ設立シ子弟ヲシテ学ニ就カシムル事

八 貧民ヲ救恤シ棄児ヲ養育シ及ヒ病院ヲ興シ婦籍ノ者ヲ常産ニ

就カシムル等ノ事

九 賊盜乱暴ノ者等総テ人民ノ妨碍ヲ為スヲ取締及ヒ其費用ヲ定

ムル事

十 其町村内ノ道路橋梁ヲ修繕シ及ヒ水路ヲ疏通シ堤防ヲ堅牢ニ

スル等ノ事

十一 地ノ宜シキヲ商リ物産ノ利ヲ起ス事

十二 水火難手当ノ事

十三 其町村共有ノ品物ヲ売払ヒ又ハ質入等ノ事

十四 県社以下祭典料営繕費并神官ヘ奉務費ヲ給スル事

第二条 前条議事要務ノ条款本会ニ於テ議事已ニ決セハ県令ヘ申出

其許可ヲ受ケ施行スル事ハ総テ其区區戸長ノ任タルヘシ

但一般ノ成規ニテ区區戸長限リ施行スヘキハ此限ニ非ス

第六章

議事ノ方法

第一条 此会議ハ本年第八月一日ヲ以テ発会ノ初日トシ爾後毎月一

日ヲ以テ會議ノ定日トス

但日ノ長短ニ不拘午前第九時ヲ發会ノ時限トス

第二条 定日定刻ニ到リ総人員ノ半ヨリ多ク出席アラハ議事ヲ開ク

ヘシ出席人員総人員ノ半ヨリ少キ時ハ延会スヘシ

但其節差掛リタル議事アレハ議長ノ特見ヲ以テ發会スル事アル

ヘシ

第三条 本日ニ欠席スル時ハ後日ニ至リ其事ニ就キ不同意ヲ申立ル

ト雖モ決シテ取上ヘカラス

第四条 議員ハ自己ノ疾父母ノ病及ヒ官庁ノ呼出等其他不得止事故

アルニ非レハ欠席スルヲ許サス

但欠席ノ時ハ其事故書面ニ認メ幹事ヘ差出スヘシ

第五条 議長若シ前条ニ示シタル事故アリテ欠席スル時ハ議員中臨

時公選法ヲ以テ入札シ本会一日ノ議長ヲ定メ發会スヘシ

第六条 議スヘキ事件アラハ本日發会前ニ總テ書取ヲ以テ幹事ヘ出

スヘシ幹事之ヲ受ケ順次番号ヲ記シ之ヲ議長ニ出スヘシ

第七条 議長ハ之ヲ取集メ其順序ヲ定メ最急務ト見込タル事件ヨリ

議事ヲ始ムヘシ

第八条 議事ヲ始ムルニハ議長先ツ其主意ヲ精密ニ演説シ衆議員ヲ

シテ其意味ヲ十分ニ解得セシムヘシ

第九条 議員ハ先ツ議長ノ演説ヲ熟聽シテ解シ難キ廉アレハ幾回モ

問返シ篤ト意味ヲ了解シタル上存意ヲ申述スヘシ

第十条 衆人同音ニ發声スヘカラス若シ同時發言スル事アラハ議長

其順序ヲ定ムヘシ

第十一条 議事ハ總テ議長ニ向テ申述スヘシ議事中各員相互ニ論弁

私語及ヒ暴怒罵詈嘲哢戲言シ或ハ睡ヲ催シ又ハ喫烟シ倦怠ノ状ア

ルカ如キ数件ハ戒メテ為スヘカラス且醉人アラハ退席セシムヘシ

第十二条 規則ヲ犯スカ又ハ議論人組テ混雜ヲ生スヘキ時ハ議長無

用ト声ヲ掛ケ之ヲ差止メ静ニ其次第ヲ正スヘシ

第十三条 総テ議事ハ可否ヲ兩端ニ分チ衆説ノ帰スル所ニ随テ決ス

ヘシ

但可否相同シキ時ハ本章第十六条ニ示シタル如クスヘシ

第十四条 議論數端ニ分レ可否決シ難キ時ハ議員中人札ヲ以テ兩三

名ヲ取調掛トシ見込ヲ立サセ其意見ニ就テ可否ヲ決スヘシ

但何等ノ議事ニ限ラス一同ノ意見既ニ定リテ其方法未タ付カサ

ルハ入札法ヲ以テ本条ノ如ク仕法ヲ付ケシムヘシ

第十五条 取調掛ノ意見尙衆議ニ協ハサル時ハ再ヒ前条ノ如クスヘ

シ

第十六条 議事三回ニ及ヒ尚決セスンハ当分其議ヲ廢スヘシ若シ廢

シ難キ事件ナレハ県令ヘ申立決議ニ随フヘシ

第十七条 議員ハ議事ヲ本務トスレハ施行ノ筋ニ関スヘカラス然レ

トモ施行ノ方法會議ノ取極メト相違スル事アラハ区戸長ニ向テ之

ヲ弁論或ハ臨時発會シ議定ノ上県令ヘ申禀スル事アルヘシ

第十八条 一旦決議ノ上ニ許可ヲ得テ施行セシ事ハ妄ニ之ヲ更改ス

ヘカラス然レトモ事実不得止ノ事アラハ更ニ發會見込ヲ立テ許可
ヲ得テ後ニ之ヲ更改スヘシ

第十九条 此議會會每一日ト定ムルモ議案ノ決シ難キカ又ハ議スヘ

キ事件多數アル時ハ翌日再ヒ發會決議スルハ妨ケナシト雖モ決シ

テ三日ニ跨ルヘカラス蓋シ其營業上ニ支障アルヲ恐ルレハナリ

但兩日ニテ決シ兼ル節ハ後會ニ付スルカ又ハ本章第十六条ニ示

シタル如クスルモ衆議ニ從テ決スヘシ

第二十条 臨時會議ハ議長ノ特権カ又ハ議員総人員半数以上ノ望ナ

レハ速ニ之ヲ開クヘシ

第二十一条 本會ニテ決議ノ後已ニ県令ノ許可ヲ得テ施行スト雖モ爾

後政府ノ公令アリテ其決議ノ事ト抵触スル事アレハ速ニ改ムヘシ

万一差支ノ筋アル時ハ其子細ヲ県令ヘ具狀スヘシ

第七章

雜 則

第一条 議事所ニ決議簿議案録議員名簿ヲ製シ置ヘシ

第二条 民事ニ就キ親ク其町村ニ就キ議スル事アル時ハ県令及ヒ其

掛官員時トシテ此會議ニ出席スル事アルヘシ

第三条 本會ニ関スル諸費用ハ公平ノ議ヲ尽シ其町村ニ割符スヘシ

但諸費用明細表ヲ作り毎年一月七月ニ県令ヘ差出スヘシ

第四条 此議事規則ハ實際施行ノ上潤飾改正スル事アルヘシ若シ本
会ニ於テモ此規則ヲ變更シ又ハ増減セント欲セハ其考案ヲ興シテ
県令ヘ申請スヘシ
右之通相定候事
明治八年七月

明治八年七月

(神奈川県布達)

五 町村会設立見込上申の件達

丙第二号

自第二至第廿大区

正副区戸長

町村会設立之儀ハ未タ一般行届カサル儀ニ有之処目今各区内之情態
實際ニ就イテノ見込早々申出候様可致此旨相達候事

明治十年一月四日

神奈川県権令 野村 靖

(神奈川県布達)

六 神奈川県臨時県会条例

第二百十二号

各大区
各区 長

来ル十二月一日ヨリ臨時県会ヲ開キ候ニ付別紙条例相達候間日限各
員来集可致此旨相達シ候事

明治八年十一月八日

神奈川県令 中島信行

(別紙)

臨時県会条例

第一条 県会ハ連月定會之レアルト雖トモ唯一日ノ開會ナレハ綿密
ノ事務ヲ議スル能ハス故ニ今般此臨時県会ヲ開ク

第二条 會議ハ十二月一日ヲ以テ發會シ七日間ヲ會議ノ日限トス

第三条 會議ノ時間ハ午前ハ第九時ヨリ十二時マテ午後ハ一時三十
分ヨリ四時三十分マテトスト雖トモ時宜ニヨリ点燈夜半ニ至ルコ
トアルヘシ

トアルヘシ

第四条 区長若シ病氣其他ノ事故アリテ来集スル能ハサレハ副区長
ヲシテ代理セシムヘシ

第五条 議スヘキ事件ハ議案ヲ發會前日マテニ衆議員ニ付スヘシ衆
議員ハ之レヲ考案シ會議ノ席ニ就テ各員其可否ヲ充分ニ審論討議

スヘシ

第六条 議案ノ条件ニ依リ衆議員ノ疑問アラハ主任官ヲシテ是レヲ
詳述セシムヘシ

第七条 議案ニ付各議員議決スルノ条件若シ時勢ノ適度ヲ得サル事